

2. 大気中の水蒸気の変化

目標時間
10分

- (1) 気体の状態にある物質(水蒸気)が液体(水)に変わる現象。
- (2) 水蒸気は目に見えないが、水蒸気をふくんでいる空気が冷え、ある程度になると(1)が始まり水滴(露)ができる。このときの温度。
- (3) 1m^3 の空間に存在できる水蒸気の質量をgで表したもの。
- (4) 空気がふくんでいる水蒸気量を、そのときの気温の(3)に対する百分率で表したもの。
- (5) 空気 1m^3 中にふくまれている水蒸気の量が12gで、その気温での空気 1m^3 中の飽和水蒸気量が30gのとき、湿度は何%か。
- (6) 気温15°Cのとき、飽和水蒸気量は 12.8g/m^3 である。気温15°C、湿度50%のとき、空気 1m^3 中にふくまれている水蒸気の量は何gか。
- (7) 地球をとりまく气体。
- (8) (7)による圧力。
- (9) (8)の標準。(1気圧)
- (10) 空気のかたまりが上昇すると、上空に行くほど周囲の気圧が(①)なり、膨張して温度が(②)るため、ある高さで露点に達する。さらに上昇すると、水蒸気は空気中の小さなちりを凝結核として無数の細かい水滴や氷の粒となる。これが(③)である。地上付近にできた(③)を(④)という。
- (11) 雲をつくる水滴や氷の粒は非常に小さいため、(①)に支えられて落ちてこない。しかし、これらの雲粒が成長して大きくなると、(①)では支えきれなくなり、落ちてくる。このようにして地表に達した水滴が(②)であり、氷の粒がとけないで地表に達すると(③)になる。(②)と(③)をまとめて、(④)という。(④)をもたらす雲は、おもに(⑤)と(⑥)である。
- (12) 地球の水が循環するエネルギーのもとは何か。

日付	1回目
----	-----

日付	2回目
----	-----

日付	3回目
----	-----